

## 大腿骨頭軟骨下骨脆弱性骨折により整形外科治療を受けた患者さんへ

(臨床研究に関する情報)

恒心会おぐら病院整形外科では、以下の臨床研究を実施しております。

この研究は、通常の診療で得られた過去の診療記録等をまとめる研究です。

このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、日々の臨床活動で実施しております。

この研究について詳しくお知りになりたい時や、研究への参加を希望されない場合は主治医へご連絡ください。

【研究課題名】 大腿骨頭軟骨下骨脆弱性骨折の診断と治療に関する多施設共同前向き研究

【研究代表者】 整形外科 小倉 雅

【研究の目的】 大腿骨頭軟骨下骨脆弱性骨折は骨粗鬆症などによる骨の脆弱性を基盤として、大腿骨頭の軟骨直下に発生する骨折のことで、昭和 41 年に提唱された比較的新しい疾患概念である。軽微な外傷を契機に発症することが多いが、全く潜行する誘因がない場合もある。発症時は強い股関節周囲痛を訴えることが多く、歩行は困難になる。しかしながら、この痛みの度合いに比較して単純 X 線像では明らかな移乗を認めないことが多い。したがって初期の診断率は低く、変形性関節症に至ってから発見されることが多い、また、初期治療も確立されておらず、進行して骨頭が圧潰すると人口股関節置換術となる。本研究により、診断と薬物治療の効果が評価でき、今後の治療の指針を示すことができる。

【研究の方法】

\*対象となる患者さん

大腿骨頭下骨脆弱性骨折と診断された方

【個人情報の取り扱い】

名前、住所など個人が特定できる情報は、厳重に管理し個人特定ができない状態で保管します。なお、研究成果の学会発表や研修会報告の際は個人の同定ができないように配慮する。

対象となる方の選定等については恒心会おぐら病院臨床研究倫理委員会の審査を経て、その承諾事項を遵守して実行します。

【研究の参加を希望されない方へ】

この研究への参加（データ提供）を希望されない場合は、主治医へ申し出てください。